

日本における スキーと 北大スキー部の 100年

since 1912



今年、レルヒ少佐が日本にスキー術を伝えてから101年です。北大スキー部は、日本のスキー技術の向上と競技の発展、スキーツアーの普及などスキー文化の普及に重要な役割を果たしてきました。この企画展示では、北大でスキーが始まった経緯や、スキー部がスキー登山およびスキー競技において果たした役割を紹介します。また、札幌近郊に我が国最初のスイス式山小屋が建てられた由来についても紹介します。

2012年10月10日(水)～12月16日(日)
北海道大学総合博物館1階「知の統合」コーナー
(10月) 9:30～16:30 (11月～) 10:00～16:00 月曜休館

主催：北海道大学山とスキーの会、北海道大学スキー部 OB 会
共催：北海道大学総合博物館
協賛：(株)秀岳荘
協力：札幌ウィンタースポーツミュージアム、(財)札幌スキー連盟、(株)ミウラ・ドルフィンズ、藻岩レルヒ会
後援：札幌市教育委員会





新潟県赤倉におけるスキー専修科校のスキー練習 (1910年3月) (画: 後藤はつの)

本年(2012年)は、レルヒ中佐が北海道(旭川・小樽)で軍人や市民にスキーを講習してから、また北海道大学スキー部創立から100年にあたります。北海道大学スキー部は北大において最も伝統のある学生クラブの一つであり、大正元年(1912年)に誕生しました。スキー部を継承している北大山スキー部と北大スキー競技部は本年ともに創部100年を迎えます。北大スキー部100年の歩みは日本におけるスキーの神話時代とその後の発展の歩みと言っても過言ではありません。

スキーは本来北国において雪の山野を跋渉する道具として誕生しました。その後冬のスポーツとして人々に楽しまれ、今日では、競技スキー・ゲレンデスキー・山スキー・歩くスキーとそれぞれの好みにより多様化しています。しかし、大自然の懐で行うスキーは単なるスポーツとしては捉えきれず、一つの文化と言えます。

本企画展示では、我が国におけるスキー発祥地の一つである札幌(北大)においてスキーが誕生した経緯、北海道での冬季登山の黎明および日本におけるスキー競技の始まりと発展において北大スキー部が果たした役割などを紹介します。また、北大スキー部を中心とした人びとによって、スキーを普及させることを目的に我が国で最初のスイス式山小屋群が定山溪を中心に建てられた経緯、それらを核として開花したスキー文化を紹介します。さらにかつて札幌の地場産業であったスキー産業のあれこれを紹介します。

健全なる冬のスポーツとしてのスキーやスキーツアーの面白さ、山小屋の楽しさを市民の皆さんに知っていただくとともに北国におけるスキー文化について考えます。



奥手稲山の家 (撮影: 井田宏一)



日本における スキーと 北大スキー部の 100年

since 1912



関連セミナー「札幌周辺の山小屋の成り立ち」

日時 | 2012年10月28日(日) 13:30~

講師 | 在田一則 (北海道大学総合博物館研究員)

会場 | 北海道大学総合博物館1階「知の交流コーナー」

入場無料・申込不要

アクセスマップ

札幌市北区北10条西8丁目(北海道大学キャンパス内)

札幌駅北口から徒歩約10分、地下鉄南北線「北12条駅」から徒歩約8分

